



特集

道内書道文化の振興に貢献 活動は海外へ  
月刊競書誌『書の研究』とともに50年 国際書道協会

シリーズ「北海道の木と文化」③ … 檜山古事の森〔江差町〕

—— 400年かけてヒバを育む森づくり 歴史的建造物の修復材となる大木に

ほっかいどうの本 … 『三角山放送局 読むラジオ』 …………… 亜璃西社

『イチから分かる北方領土』 …………… 北海道新聞社

『ブルーチーズドリーマー 世界一のチーズをつくる。』 …… エイチエス

札幌市に本部を置く国際書道協会がことし50周年を迎えました。北海道の書道文化の発展と書家育成を目的に始まった活動が、半世紀の歴史を経て少子化やパソコンの普及に伴う書道人口の減少に見舞われながらも、海外の書道熱も取り込み着実に裾野を広げています。令和元年度の「北海道功労賞」を受賞された小原道城会長に、ご自身が精魂込めて打ち込んできた書芸術の発展、書教育の振興普及のこれからについてお話をうかがいました。

(取材日 9月4日)



こはら 道城さん  
国際書道協会会長

1939年、栗山町生まれ。1963年に北海道学芸大(現北海道教育大)札幌校美術科(書道専攻)卒業。高校教員を務め、1981年に書家として独立。2007年札幌芸術賞。2010年道文化賞。2012年文化庁地域文化功労者表彰。2011、2015年北海道書道連盟理事長。書道研究団体「心華社」主宰。日本書道評論社代表。中国の東北師範大客員教授。毎日書道展審査会員。本名・昇(のぼる)。

## 特集

# 道内書道文化の振興に貢献 活動は海外へ 月刊競書誌『書の研究』とともに50年 国際書道協会

## 道内書道界の中核を担う

約20万人とも言われる北海道の書道人口。小原さんは、全国的にも有数の規模を誇る理由を北海道の気候と、豊かな種をまいてくれた先人の軌跡、と振り返ります。「日本における昭和の書道全盛を築いた10人の先覚者のうち、金子陽亭先生(松前町出身)、桑原翠邦先生(帯広市出身)、金田心象先生(幌延町出身)が道内出身者。その後に続く多くの人たちが各地で研鑽を積み、後進の指導に励んだことが今日の礎になっ

ています。また厳寒期が長い北海道は、室内での生活を余儀なくされる時間が多く、一度始めたなら簡単に放り出さない道民性も書道に向いています(小原さん)。その北海道書道界において中核を担う団体の一つが国際書道協会です。1969年3月に北海道書道協会(2013年8月に国際書道協会に改称)として設立し、月刊競書誌『書の研究』が創刊した70年から一般向け展覧会「書初め展」と学生向けの「誌上書初め展覧会」を開催、「書の研究」で書道を学ぶ人たちの発表・研鑽の場とし

て回を重ねていきました。76年には応募者の増加に伴い「書初め展」を「全道書道展」に、「誌上書初め展覧会」を「全国学生書道展」に名称を変えました。最盛期には応募作品が2500点に達し、会場も札幌市民会館(当時)から札幌市民ギヤラリーに変わり、第38回からは文部科学大臣賞が授与されるなど大規模なものに成長していきました。その一方で昭和から平成にかけて「全道書道展」に2つの大きな波が押し寄せます。書道愛好層の国際化、そして少子高齢化による国内書道人口の伸

び悩みでした。

## 中国、欧米。国際化の波

書画の収集家でもある小原さんにとって「書の王国」である中国は若い頃からの憧れの地で、日中国交正常化の前年、1975年に上海、北京、延安、西安を訪問しています。「当時は日本人というと歓待してくれて、行く先々の美術館・博物館で、倉庫に眠っている作品を見せてくれました。これまで本の中でしか見たことがなかった著名な作家の作



第13次小中学生海外研修団（台湾）  
交流先の石牌國民小學にて 2018年3月



書道人口を増やしてきました」（小原さん）。93年には中国で国立吉林藝術

品を見ることができて、恍惚の境地でした」（小原さん）。77年以降は、道内の小中学生や書家、書道愛好家らと共に訪中団、訪台団を結成し、中国や台湾を訪れて現地の人たちと席書会という勉強会を通じて交流を深め合いました。その中で毛沢東による建国までの間、中国国内の内戦や政情不安により、多くの作品と伝統的な技法が消失してしまつた現状を知ります。「明や清の時代まで、中国は書道の本家でしたが、日本人は、百済を通じて入ってきた漢字を草書化して『かな書』を、漢字とかなを融合させて近代詩文書を確立し、漢文の中から1、2文字を抽出して表現することで文字が持つ美しさと表現方法を学ぶ『少字数書』や、淡い墨を使った『淡墨書』を編み出すなど書道の分野を発展させて

学院、94年には東北師範大学の客員教授に就任した小原さんは、地方都市を回り書道を教えてきました。訪問回数は中国だけで50回以上。交流によって人脈が広がり、中国から「全道書道展」への応募が増えたこともあり第39回展（2008年）には「中華人民共和国駐日本国大使館賞」を贈る事を中国政府が許可。第41回展（10年）から名称を「国際現代書道展」に改めました。「中国にも書道団体や展覧会はあるのですが、日本の10倍以上とも言われる人口からすると数は少なく、狭き門」なのです」（小原さん）。今年1月の第50回記念展では出品総数2192点のうち401点が外国からの応募でした。今年1月に開催された「国際現代書道展」の表彰式・祝賀会には中国の瀋陽市書画芸術培訓学校から譚緝校長と生徒とその父母ら計39人が出席するなど、国際色豊かなものになりました。ここ数年、国際現代書道展にはアジア以外にも欧米や南米、アフリカなどからの応募も増えていきます。興味を持って独学し、インターネットで展覧会の事を知り月刊競書誌『書の研究』を買い求めて応募



第41回国際現代書道展で文部科学大臣賞を受賞し席上揮毫パフォーマンスをする小原さん 2010年1月

募してくる人もいることから、小原さんは今後、国際化の波がますます広がっていくと確信しています。「アルファベットという記号の組み合わせで言葉に意味を持たせる西欧文化と違い、一文字に喜怒哀楽を込める日本の漢字に芸術性を見出す外国人が増えています」。

### 「水書」が書道復権の起爆剤に

少子高齢化、習い事の多様化やパソコンなどの普及により、かつては「読み書きそろばん」に例えられる「きれいで正しい字を書く」事に対する優先度が以前より低くなっているほか、高校などの書道部活動も以前と変わっているようです。「ここ数年、パフォーマンス書道に注目が集まっています。書道自体が脚光を浴びるのは良いことですが、半紙や条幅に向き合う本来の書道をしなく



国際部門の作品について解説をする小原さん

なっている。それにパフォーマンスで展覧会に出られるのは各校3、4人。部活動自体も低調になっている感は否めません」（小原さん）。

危機感を強めていた書道界に明るい話題がもたらされました。国は2017年に新学習指導要領を公示し、20年度から小学校低学年を対象に「水書」を導入することにしたのです。筆ペンのような筆記用具を使うもので、中に入っているのは水。用紙に特殊加工を施し、表面の層に細かい凹凸があります。水で文字を書くとき、濡れた部分は光を透過し、下地の黒が透けて文字が浮かび上がり、乾くと凹凸が光を反射して白っぽく見えるというもの。「国も文字文化の将来に危機感を持っていてたのでしよう。書道教育界の悲願が実現し安堵していますが、受け入れる側も意識改革と体制の強化が急務です。水を使うことで汚れを気にす



表彰式・祝賀会  
第50回記念国際現代書道展 2019年1月



第50回記念全国学生書道展表彰式 2019年1月



第50回記念全国書道コンクール表彰式後の記念写真 2019年8月

る必要がなくなり、硯や文鎮などの書道用具を揃えるというハードルも下がります。低学年以下の子どもたちには書道の楽しさを伝えられるような指導方法について試行錯誤を重ね、書道への門戸を広げたい」と小原さんは力を込めます。

## 書家と画家に揺れる

今年80歳を迎える小原さん。「書家と水墨画家の狭間で揺れ動いた人生でした。多分死ぬまで揺れ続けるのだと思います」と笑います。

小原さんは栗山町で生まれ、雨煙別小中学校で学んだ後、栗山高校に入学しました。最初に志したのは絵描きの道で、小学2年生の時に通っていた雨煙別小中学校で画家の先生から絵の描き方を教わったのがきっかけでした。転機は栗山高校2年の時に赴任してきた稲垣蓬雪先生との

出会いでした。稲垣先生は書道熱を盛り上げようと学校を挙げて活動し、時に繊細で時に大胆な筆使いと情熱に魅了された小原さんは、書道家へのあこがれを募らせていきます。そして1957年、「全国学生書道展」に応募し、高校3年の部で最高賞を受賞しました。私の作品を高く評価してくださった呉市の重本芸城先生が「北海道で城を築くように、道城」と命名され、書家を目指すようになりました。

## 美術館建設運動に奔走

稲垣先生からの勧めで1958年、北海道学芸大学岩見沢分校に進学した小原さんは、3年生直前の春休みに、友人と全国縦断旅行に出掛けて各地の博物館・美術館を見て歩き、上野の東京国立博物館で比田井天来や富岡鉄斎など数々の名筆、古筆を目にして衝撃を受けます。当時北海道には美術館がなく、本物の美術品を鑑賞することの大切さを痛感した小原さんは、当時活況だった学生運動さながらの「美術館建設運動」を始め、学芸大学の分校に呼びかけて、署名と募金活動を行ったのです。集まった署名は40万人、10円

玉募金が30万円。これをリヤカーで北海道庁に運び、要望書とともに町村金五知事(当時)に直接手渡ししました。町村知事は美術館を建設するための調査を確約してくれて、当時の北海道総合計画(新長計)に「道内に5ヶ所、美術館をつくる」ことが盛り込まれました。1967年には道立図書館だった建物が道立美術館としてオープンしました。

当時の岩見沢分校は一般教養課程の2年間で岩見沢で、専門課程を札幌で学ぶシステムでした。小原さんは岩見沢時代には青沼秀鳳先生、札幌では金丸梧舟先生に師事しました。金丸先生は書家であり、当時日本有数の筆跡学の権威だった方です。先生の助手を務めるなど書道との関わりは深まっていき、1963年に同校を卒業後、芦別啓南高校に奉職。69年には札幌啓北商業高校の教諭として書道の普及に力を注ぎながら、私費を投じて中国や国内の書画、拓本の収集を行っていました。

## 道内初の本格月刊競書誌『書の研究』

芦別市での勤務時代に、「書道教育に関する情報を発信する新聞を発行しては」との声があり「当時は書

道に関する出版物が少なく、媒体をつくることで書道人口を増やすための起爆剤になるなら」と小原さんは1964年、季刊「書道評論」を創刊しました。タブロイド判で6ページ構成でしたが、全道の書家を通じて広がり発行部数は3500を超えていきます。媒体の力に手応えを掴んだ小原さんは青沼先生と共に69年、月刊競書誌『書の研究』を発刊。分かりやすい解説手本が評判を呼び、77年には第100号を突破しました。

静修短期大学(現札幌国際大学短期大学部)非常勤講師として書道実技や日本文化演習などの講義を受け持ち、日本書道アカデミー「日本書道大学講座」本部長などの要職に就くなど書家としても多忙を極めるようになった小原さんは81年、教員退



1981年に開催された旭川地区での書道講習会



1971年に開催された第1回書道講習会

職の道を選びます。その後、札幌市内全域で書道教室を開講して指導に当たる一方、創作活動にも意欲的に取り組みました。

北海道における書道の普及の原動力となった『書の研究』は大人版と学生版があり、大人版は古典臨書と一般的な書道の分野を網羅し、ペン字、ボールペン字のほか実用書道、写経や調和体書、篆刻（木・石などに印を彫ること）の解説や手本も盛り込んでいます。学生版は毛筆と硬筆、かなの各部門を学ぶ格好の教材として定着しています。「中学校までの間で、実用（正しく美しく書く）を身に付け、高校以上でより個人的に美しく書くという芸術性を学んでもらうというテーマはこれまで一貫しています。学生版では鉛筆・ペン字を取り入れ、子どもの創作意欲をかき立てるため自由部門もつくるなど、時代に対応した書のあり方を模索しています」（小原さん）。

### 念願の書道美術館がオープン

その後、小原さんは北海道書道協会や北海道書道連盟の理事長として書道振興の牽引役を担っていきますが、「書」の美術館を札幌につくりたい」という思いから1993年に

「書道資料館」の開設準備室を設置。2012年には美術館の運営法人として北海道書道協会を一般財団法人化して代表理事に就任し、翌13年に待望の「小原道城書道美術館」（札幌市中央区北2条西2丁目）がオープンしました。江戸、明治、大正、昭和、平成と各時代の書4000点のほか、中国・明、清時代の作品800点、小原さんの書500点と水墨画300点など合わせて5800点と、書道書籍・美術全集800点が収蔵され、年間3回、テーマを決めた特別展を開催しています。現在の運営は一般財団法人小原道城書道美術館が担い「私的なコレクションとしてスタートしましたが、美術館をオープンしてから全道各地から書作品を寄贈いただきました。所有権



札幌市時計台の近くにある「小原道城書道美術館」。江戸時代以降の著名人の作品が展示されている

を財団が管理することで作品を後世に残すことができます」（小原さん）。開館4年目には入場者数1万人を突破したほか、札幌市時計台の近くにあるので中国や欧米など海外からの観光客も訪れています。

### 今なお続く創作活動 来年には大規模個展も

現在も一日のルーティンを決めて書と水墨画の創作に余念がない小原さん。時に12時間以上も創作し続け深夜2時を越えることもあるそうです。

来年7月には札幌市民ギャラリーの1階全フロアを貸し切って個展を開催しますが、それでも書作品と水墨画作品を展示する予定です。公私の別なく書道界の発展に打ち



東京・セントラルミュージアム銀座で開催した第16回小原道城書作展 2018年7月

込んで来た姿は国内外からも高く評価され、2010年に北海道文化賞を受賞したほか、16年には紺綬褒章を受章。2019年度の北海道功労賞にも輝き、今年11月に鈴木直道知事から表彰状が贈られる予定です。

### 時代の変化に対応 後進育成も着々と

国際書道協会は1998年に青年部を立ち上げました。各拠点の先生から推薦された40人がメンバーで、現在の平均年齢は50歳。「国際現代書道展の審査員を務め、協会執行部候補の人材が育つてきています」（小原さん）。このほか2013年には、書道研究「心華社」の下部組織として、「第二心華社」を設立しました。メンバーは全道から推薦された25人。学校教員のほか、各先生の助手や会社員などで現在平均年齢は30歳前後。青年部、第二心華社ともに6割が女性です。小原さんは「先輩たちが播いた種を育て、次へつなげるための、しっかりとした土台はできつつあります。国際化の広がりや水書の導入など、これからも時代の変化に対応しながら、書道の奥行の深さと面白さを伝える団体であり続けたいですね」と話します。

## 北海道の 木と文化 ③



# 檜山古事の森〔江差町〕

## 400年かけて ヒバを育む森づくり 歴史的建造物の 修復材となる大木に

江差町の南端、樫川地区の集落から東へ約3・5キロ、山道を進むと「檜山古事の森」にたどり着きます。5センチほどのこの森の中に、道内ではほとんど目にするここのないヒバ（ヒノキアスナロ）の若木が植えられています。これらを400年かけて直径1メートルを超える大木に育て上げようと、16年前から町内の有志が森の手入れを続けています。

### 江差発展の礎となったヒバ

渡島半島が北限とされるヒバは、上ノ国町内を流れる天の川と、厚沢部・江差両町を流域とする厚沢部川に挟まれたエリアに群生していました。江戸時代、その木材は松前藩の財政を支え、ニシン漁とともに江差繁栄の礎となりました。

ヒバは、材質がヒノキに似ているため、かつては檜、生育している山を檜山と呼ばれました。檜山が多く、林業が盛んだった江差周辺を、明治政府は、1869年の国郡制施行で檜山郡と決めました。こ

の地名は、北海道の名付け親でもある松浦武四郎が建議したものです。

スギやトドマツなどに比べ、ヒバは成長が遅い分、木目が緻密で強度があります。湿気に強く、腐りにくいなどの特長から、大規模な建築物の柱や土台、浴槽のほか、橋桁や船舶などに用いられました。

しかし、長年にわたる過度の伐採や度重なる山火事で、「波打際より良材茂り」といわれた天然林は消失し、森林資源はほぼ枯渇しました。樫川国有林の山奥に残るヒバ林は1922年から、国が天然記念物に指定し保護しています。

### 地元に植えて育てる古事の森

古事の森は、作家の故・立松和平さんが提唱し、林野庁が全国に9カ所設定しています。道内は江差町の1カ所だけで



高さ3メートルほどに成長したヒバもある古事の森

## ほっかいどうの本

（お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください）  
（特記以外は税込価格です）

### 三角山放送局 読むラジオ

らむれす 編者  
亜璃西社 発行  
011・2221・5396  
B5変型判 96頁 1650円



この本は2018年4月1日に開局20周年を迎えた、札幌市西区にある三角山放送局（周波数は76・2MHz）の歩んできた軌跡がまとめられています。

伝えたいことのある人がマイクの前に座ること、社会的少数者の声を切り捨てず、積極的に発信していくこと、放送で嘘をつかないこと、この3つの指針を「いっしょに、ねっ！」のキャッチフレーズに込め20年にわたり地域に密着した番組がつけられてきました。

三角山放送局の創業者である木原くみこさんの亡くなる直前に行われたインタビューでは、放送局

開設の経緯やコミュニケーションFM放送の有り様、ラジオへの想いが熱く語られています。

ALS（筋萎縮性側索硬化症）で声を失っても放送を続ける米沢和也さんの挑戦を綴った「読むラジオ」、20年を振り返る「三角山放送局の軌跡1998-2018」、三角山放送局を支える約150名の出演者を「パースナル名鑑」として掲載しています。（上）

### イチから分かる 北方領土

北海道新聞社 著  
北海道新聞社 発行  
011・2210・5744  
A5判 128頁 880円



「北方領土」を巡る問題について、日本に住んでいれば誰もが一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

木が高価な上、道内に



古事の森の風通しを良くする保育作業 (江差町提供)

7月には育樹祭を開き、下刈りなど幼木の保育に励んでいます。ヒバは苗木が高価な上、道内に

少なため市場にはほとんど出回りません。それを2000〜4000年かけて地元で安定的に確保しようという息の長い取り組みです。



旧中村家住宅(中央)など、いにしえ街道沿いにはヒバを使った歴史的建造物が残る

す。法隆寺(奈良県)のヒノキ、中尊寺(岩手県)のケヤキなど、歴史的建造物を修復するにはこれら樹種の大径材が必要ですが、希

江差町ー



樹齢350年のヒバで作った役場前のモニュメント

江差町ー江戸期のニシン漁最盛期は「江差の五月は江戸にもない」といほどの繁栄を極めました。北前船からもたらされた江差過半などの芸能文化も伝承されています。

江差町は、馬場山地区にある「町民の森」にヒバを植える活動を1997年から続け、こととして1万本を突破しました。檜山振興局も1998年から管内各地にヒバを植樹し、累計8000本を超えています。檜山は、一歩ずつ再生へ向かっています。

また、檜山古事の森に隣接する「ひばモデル林」では、北海道森林管理局が林内の照度別に成長具合などを比較して、効率的なヒバの森づくりを研究しています。立松さんは「日本の文化の根底は、

適した育成技術も確立されていませんでしたが、江差町在住の北海道指導林家・坂野正義さんが1996年ごろ、挿し木から短期間で苗木にする方法を開発しました。また、檜山古事の森に隣接する「ひばモデル林」では、北海道森林管理局が林内の照度別に成長具合などを比較して、効率的なヒバの森づくりを研究しています。立松さんは「日本の文化の根底は、

この本は、北海道新聞朝刊で2019年1月17日付から計5回にわたり連載していた「木曜ワイド」から分かる北方領土の歴史」を再編したもので、日本とロシアの間に初めて国境線を定めた1855年から、現在に至るまでの北方領土に関わる主な歴史の流れが分かりやすく紹介されています。

ブルーチーズドリーマー  
世界一のチーズをつくる。  
伊勢 昇平 著  
エイチエス 発行  
011・792・7130  
四六判 212頁 1540円

他の「樺太・千島交換条約はなぜ行われたのか?」「なぜヤルタ協定で、ソ連に千島列島を引き渡すことが約束されたのか?」など読者の疑問を簡潔に解説する「Q&A」のコーナーや、「北方領土」を取材する記者たちの書下ろしなどさまざまな角度から「北方領土」を知ることができます。知っているようで知らない「北方領土」の歴史。この機会に道民は勿論のこと、多くの方には是非一度読んでいただきたい内容です。

「Q&A」のコーナーや、「北方領土」を取材する記者たちの書下ろしなどさまざまな角度から「北方領土」を知ることができます。知っているようで知らない「北方領土」の歴史。この機会に道民は勿論のこと、多くの方には是非一度読んでいただきたい内容です。

他の「樺太・千島交換条約はなぜ行われたのか?」「なぜヤルタ協定で、ソ連に千島列島を引き渡すことが約束されたのか?」など読者の疑問を簡潔に解説する「Q&A」のコーナーや、「北方領土」を取材する記者たちの書下ろしなどさまざまな角度から「北方領土」を知ることができます。知っているようで知らない「北方領土」の歴史。この機会に道民は勿論のこと、多くの方には是非一度読んでいただきたい内容です。

この本は、北海道旭川市にある江丹別町で世界一のブルーチーズを作ることに決めた伊勢昇平さん

の奮闘記です。故郷の江丹別では夢も希望もないと思っていた伊勢さんは、小さな牧場に育ち、高校では教室で一人お弁当を食べる生活を送っていました。しかし、あの先生との出会いから、夢も希望もないのは土地や環境のせいではなく、自分自身の考え方なのだと気づかされます。



JAL国際線ファーストクラスの機内食に採用され順風満帆な中、突然悲劇がおとずれチーズに青カビが全く生えなくなります。対処法が分からず2015年、フランスへと単身旅立ちますが、ANAの飛行機内での心温まるエピソードや後日談に運命を感じます。人より劣っているところは、言い換えれば、人と違うところ。嫌われる事を恐れて自分の良いところまで押さえつけてしまっただけの本末転倒。最初から夢や希望がある人なんていない。ものづくりから場所づくりへと著者の夢は広がります。勇気と自信を与えてくれるこの1冊は、将来に悩んでいる若い世代にもおすすめです。(若)

# 新刊情報

書名の下に数字は日本図書コード(J-SBN)及び雑誌コード。特記以外は税込価格。  
お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。

## ぶんちゃんのぼうけん

北海道新聞社 作／高橋 美紀 絵  
A4変型判 32頁 1430円

## しまえながのきもち

山本 光一 著  
四六変型判 88頁 1100円

## 母・遠藤道子と私

遠藤 郁子 著  
四六判 256頁 1760円

## モーリー53号

要注意生物！と呼ばれる生き物たち  
北海道新聞野生生物基金 編  
A4判 72頁 990円

## 昭和30〜40年代 北海道の鉄道

星 良助 著 978-4-89453-969-4  
B5判 432頁 3080円

## 道新プラス別冊

北海道鉄道旅おつえんブック2019夏／秋  
北海道新聞社 編 16746-07  
A5判 88頁 509円

## 道新プラス道新受験情報

2020高校入試合格データ特集 16747-08  
北海道新聞社 編  
B5判 290頁 815円

## かなしむ人間

人文学で問う生き方  
鈴木 幸人 編著  
四六判 296頁 2860円

## 世界はボーダーフル

岩下 明裕 著 978-4-8329-6862-3  
B5判 64頁 990円

## 過疎地神社の研究 人口減少社会と神社神道

冬月 律 著 978-4-8329-6830-0  
A5判 368頁 8250円

## 三角山放送局 読むラジオ

らむれす 編著 978-4-906740-37-6  
B5変型判 96頁 1650円

## 瑠美子、君がいたから

高井 保秀 著 978-4-906740-38-3  
四六判 348頁 1650円

## さつぼろ野鳥観察手帖

河井 大輔 著／諸橋 淳 写真・イラスト／佐藤 義則 写真  
四六判 280頁 2200円

## 考古学からみた北大キャンパスの5,000年

江田 真毅・小杉 康 編著 978-4-89115-365-6  
A5変型判 96頁 1320円

## ヴォルフワーラー オペラの世界

オペラ作品分析  
岡元 敦司 著 978-4-89115-367-0  
A5判 190頁 3300円

## フィンジュル

織田 憲嗣 著 978-4-89115-366-3  
A4変型判 162頁 4400円

## 愛のまなざし

三浦綾子の舞台を旅する  
石井 一弘 著 978-4-89115-369-4  
四六判 128頁 1320円

## 中西出版

07083 札幌市東区東雁来3条1丁目1-34  
011-785-0737

## シヨリークへの道

レジンドたちのテクニク 978-4-86453-066-1  
西本 幸雄 監修・著  
高橋 茂・小岩 政昭 著  
B5判 112頁 2530円

## 新版マニユア・マネージメント

糞尿の適切な処理と有効活用へ  
羽賀 清典 監修 978-4-86453-067-9  
A4判 220頁 4819円

## 松本十郎の漁場改革と新ひだか町静内の歴史

及川 邦廣 編著 978-4-8328-1906-1  
A5判 124頁 1430円

## 松浦武四郎の剣路・根室・知床探査記

加藤 公夫 編 978-4-8328-1905-4  
四六判 278頁 1980円

## 熊(ひぐま)の実像 THE REAL BROWN BEAR

門崎 允昭 著 978-4-8328-1907-8  
A5判 284頁 2200円

## 日本の歩みを強く危惧する

93歳の原爆体験者からの訴え  
玖村 敦彦 著 978-4-909281-17-3  
四六判 156頁 1650円

## 元騎手藤田伸二の生涯、やんちゃ主義

藤田 伸二 著 978-4-87933-927-2  
四六判 254頁 1320円

## 爪の光

紺谷 友昭 著／北海道新聞社事業局出版センター 製作協力  
四六判 420頁 2300円

## 私を訪れた世界遺産100

八木 知徳 著  
B5変型判 112頁

## 私が訪れた世界遺産100

八木 知徳 著  
B5変型判 112頁

## 爪の光

紺谷 友昭 著／北海道新聞社事業局出版センター 製作協力  
四六判 420頁 2300円

## 医聖華岡青洲の偉業

田邊 達三・華岡 慶一 著／華岡青洲文献保存会 発行／株式会社ノヴェロ 発行協力／北海道新聞社事業局出版センター 製作協力  
B5判 132頁 5000円

## ウズベキスタン陶芸紀行

よみがえるシルクロードの巻元 978-4-87739-328-1  
菊田 悠 著  
A5変型判 80頁 1650円

## 爪の光

爪の光 978-4-87739-330-4  
青木 曲直 著  
100×74ミリの232頁 5233円

## 所得分布の要因分解法

木村 和範 著 978-4-87739-329-8  
A5判 192頁 3190円

## 爪の光

共同文化社 978-4-87739-328-0  
011-251-8078

## 爪の光

共同文化社 978-4-87739-328-0  
011-251-8078

## 爪の光

共同文化社 978-4-87739-328-0  
011-251-8078

## 爪の光

共同文化社 978-4-87739-328-0  
011-251-8078

## 爪の光

共同文化社 978-4-87739-328-0  
011-251-8078

## 爪の光

共同文化社 978-4-87739-328-0  
011-251-8078

## 爪の光

共同文化社 978-4-87739-328-0  
011-251-8078

## 爪の光

共同文化社 978-4-87739-328-0  
011-251-8078

## 爪の光

共同文化社 978-4-87739-328-0  
011-251-8078

## 爪の光

共同文化社 978-4-87739-328-0  
011-251-8078

**紙のよこ**  
初冠雪  
山本 修一  
木版画 38センチ×55センチ

「斜里郡斜里町の道道93号知床公園線を岩尾別方面に向かう際、初冠雪を迎えた羅白岳(標高1661メートル)を右に、左に三ツ峰(1509メートル)を眺望。カラマツの紅葉と相まった絶景が広がっていました。」  
全道美術協会(全道展)会友 札幌市在住